

Q： 前回の決算説明会（2025 年 11 月 7 日実施）では、Q3 の営業利益は 220～230 億円程度を想定しているとの説明だったように思う。Q3 営業利益実績 345 億円は会社想定を約 100 億円上振れたという理解でよいのか。また、その要因は何か。

A： FY2025Q3 の営業利益は、ご理解の通り、会社想定を約 100 億円上振れた。主な要因は、オフィスサービスでの事業譲渡益の計上と為替が想定レート比円安で推移したこと。事業の進捗では、それぞれプラスマイナスがあるものの、総じて想定範囲内であった。

Q： 営業利益の通期見通しが 900 億円、Q3 累計実績が 700 億円であるなら、Q4 の見通しは 200 億円となる。前回の決算説明会では Q4 の想定は 300 億円程度との説明だったが、100 億円減額となった背景について教えて欲しい。

A： 主に、構造改革費用の追加 70 億円と、半導体メモリー調達価格上昇によるコスト増 20 億円程度を織り込んだことによる。

Q： 事業環境には不透明な要素もあるなか、来期 FY2026 以降をどう見通しているか。成長に期待の持てる領域や取り組みなどあれば伺いたい。

A： 成長を期待したいのはオフィスサービスになる。当期も確実に増益を続けており、買収企業とのシナジー創出やワークプレイスエクスペリエンスでの体制強化など、成長に向けた施策を進めている。
オフィスプリンティングは来期も減益要因を前提に考えることになると思うが、ノンハードの減益は緩和できると考えている。欧州で代売強化施策の効果が表れるなどハードの拡販が進められており、ノンハードに寄与する見込み。商用印刷は来期の早い時期はまだパイプラインの構築が続くものの、年度を通じてみれば回復に向かう見込み。一方で、半導体メモリー部品のひっ迫影響は続き、3 桁億円に乘る程度のコスト増も想定している。これに対しては、生産・販売面で対策検討を進めており、来期の計画にはその効果も含めて影響を織り込むことになる。不透明な事業環境が続くことになるだろうが、当期を超える営業利益を狙いたい。

Q： 新中期経営戦略の発表はいつを予定しているか。

A： 2026 年 3 月 25 日に発表予定。

Q： 追加の構造改革費用 70 億円はどのセグメントに該当するか。効果の規模と発現時期についても知りたい。

A： 追加費用はリコーデジタルプロダクツ、リコーデジタルサービスおよびその他セグメントに含まれているが、金額規模など具体的な内容は控えたい。
構造改革には不要な資産の見直しなども含めている。効果は来期以降に見込むが、大きな額になるとは考えていない。

Q： リコーグラフィックコミュニケーションズはハード販売が芳しくないとの説明であったが、営業利益の通期見通しが上方修正されている背景は何か。

A： 経費抑制を続けることと、想定為替レートを円安へ変更したことによる。

Q：通期見通しの要因別営業利益について伺いたい。為替レートの前提変更により100億円の上方修正との理解でよいか。また、経費等で30億円の上方修正となっており、期初より経費削減を進めている印象があるが、どのように取り組んでいるのか。

A：為替影響については、ご理解の通り、Q3の結果と合わせて、Q4の想定為替レートも見直したことで前回の-50億円から+50億円へと100億円の上方修正を入れた。
経費等の削減は、これまでに行った経費コントロール等、しっかりと削減が進んでいる状況を織り込んだ。特に研究開発投資については、企業価値向上プロジェクトの施策として、当社の企業価値向上に資する研究開発活動を丁寧に検証し、適正化、キャッシュアウトの削減に取り組んでいる。

以上